2020 年度
秋季リーグ戦評

筑波大学硬式野球部

順　位	大 学	勝	負	ポイント
優　勝	日本体育大学（５季ぶり２４回目）	4	1	13
2	武蔵大学	3	2	10
3	帝京大学	3	2	8
4	筑波大学	3	2	7
5	桜美林大学	1	4	4
6	東海大学	1	4	3

※勝利したチームが３ポイント、タイブレークの場合は勝利チームが２ポイント、敗北チームが１ポイントを獲得。

◇表彰選手

ベストナイン一塁手部門

　清水大海　（体育２年・日立第一）

ベストナイン指名打者部門

　星野大希　（体育３年・高崎）

左：星野大希　　右：清水大海

9/19(土)　1日目　第3試合　対帝京大学　（大田スタジアム）

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
筑波大学	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
帝京大学	0	0	0	0	2	0	0	0	x	2

位置	選手名	学年	出身	打	安	点
④	片岡	3	報徳学園	4	1	0
③	清水大	2	日立第一	4	2	1
⑦	串田	4	県立船橋	3	0	0
⑨	大竹哲	3	刈谷	4	0	0
(D)	星野	3	高崎	4	2	0
⑤	座馬	4	浜松北	3	1	0
H	田中	4	福岡大大濠	1	1	0
R	今井	2	健大高崎	0	0	0
⑧	上中尾	3	敦賀気比	4	1	0
②	成沢	1	東邦	2	1	0
H	仲井	2	県立星陵	1	0	0
⑥	坂口	3	東筑	3	1	0
合計				33	10	1

投手	●加藤三、西舘、吉本、奈良木
捕手	成沢
本塁打	
三塁打	清水大
二塁打	田中

2安打を放った星野（体育3・高崎）

投手成績

選手名	学年	出身	投球回	打者数	被安打	自責
●加藤三	4	花巻東	5	21	6	2
西舘	2	盛岡第三	1	4	0	0
吉本	3	彦根東	1	5	0	0
奈良木	4	県立府中	1	4	0	0

新型コロナウイルスの影響で1試合総当たり制と縮小された中で行う今季。春季リーグ戦が中止となり、約1年ぶりの公式戦となる初戦の相手は好投手が揃う帝京大学。4年生の集大成となるこの試合の先発を任された加藤三（体育4・花巻東）はコーナーを丁寧につき、上々の立ち上がりを見せる。筑波大学は三回、1年生ながらスタメンマスクを被る成沢（体育 1・東邦）がセカンドへのリーグ戦初安打を記録。そしてこちらもリーグ戦初出場となる坂口（体育 3・東筑）が絶妙な犠打を決めチャンスを広げると、2番の清水大（体育2・日立第一）が右越適時三塁打を放ち待望の先制点をもぎ取る。四回裏、加藤は先頭打者に長打を浴び0死三塁のピンチを招くも4番、5番、6番を三者連続三振に切って取り気迫の投球を見せる。しかし五回、加藤は2死を取るもその後3連打を浴び逆転を許してしまう。六回以降は西舘（体育2・盛岡第三）、吉本（体育3・彦根東）、奈良木（社工4・県立府中）の投手リレーで帝京大打線を無失点に抑え込み、守備では成沢が2つの盗塁を阻止するなど投手陣を引っ張る。打線は相手先発投手から六回までに8本の安打を放つもあと一本が出ず得点とはならない。一矢報いたい筑波大学は九回、これまでのリーグ戦で4番を務めた経験もある田中（体育4・福岡大大濠）を代打に起用。初球から振り抜いた打球は右翼線二塁打となり、0死二塁の絶好のチャンスを作る。しかし、後続が続かず1対2で惜敗。筑波大学は今試合2桁安打を記録するも、併殺打や犠打失敗で打線が繋がらず、1得点に終わった。5試合しかない今季、27季ぶりの優勝を目指す筑波大学にとっては手痛い黒星スタートとなった。

9/20(日)　2日目　第2試合　対東海大学　（大田スタジアム）

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
筑波大学	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
東海大学	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

位置	選手名	学年	出身	打	安	点
④3	片岡	3	報徳学園	4	1	0
③	清水大	2	日立第一	3	0	0
H	西浦	1	八尾	1	1	1
R4	村上卓	4	松山北	0	0	0
H	田中	4	福岡大大濠	1	0	0
4	白石	3	岩国	0	0	0
⑦	串田	4	県立船橋	4	0	0
⑨	大竹哲	3	刈谷	4	0	0
(D)	星野	3	高崎	4	2	0
⑤	座馬	4	浜松北	3	1	0
⑧	上中尾	3	敦賀気比	4	1	0
②	成沢	1	東邦	2	0	0
H	濱内	2	履正社	0	0	0
R	今井	2	健大高崎	0	0	0
2	島脇	4	釧路湖陵	0	0	0
⑥	坂口	3	東筑	1	0	0
合計				31	6	1

投手	佐藤隼、〇村木
捕手	成沢、島脇
本塁打	
三塁打	
二塁打	星野、西浦

7回1失点の好投を見せた佐藤隼（体育3・仙台）

投手成績

選手名	学年	出身	投球回	打者数	被安打	自責
佐藤隼	3	仙台	7	26	3	1
〇村木	4	静岡	2	6	1	0

初戦を落とし、優勝のためにも絶対に負けられない第2戦の相手は、昨秋圧倒的な戦力で全勝優勝を成し遂げ、明治神宮大会ではベスト4という好成績を収めた東海大学。初戦に快勝し波に乗る東海大学に立ち向かう筑波大学の先発は佐藤隼（体育3・仙台）。立ち上がりにピンチを作るも無失点で切り抜ける。打線は三回、3つの四死球で2死満塁のチャンスを作るもあと一本が出ず無得点に終わる。その後は前の試合2本の安打を放った星野(体育3・高崎)が今試合もマルチ安打を放ち、盗塁を決めるなどチャンスを演出するも得点とはならない。先発の佐藤は初回以降六回までは安打を許さず、相手打線を寄せ付けない投球で8つの三振を奪う。佐藤の好投に応えたい打線は七回、2死二塁のチャンスを作り、打席にはリーグ戦初出場の西浦(体育1・八尾)。追い込まれながらも振り抜いた打球はセンターの頭を越え、適時二塁打で先制に成功する。しかしその裏、佐藤が相手打線に捕まり同点を許してしまう。八回からマウンドに上がった村木(体育4・静岡)が、相手打線を3人で抑え流れを引き寄せると、九回表、先頭の上中尾(体育3・敦賀気比)が打った大飛球を相手三塁手が落球し、0死二塁の絶好のチャンスを迎える。続いて打席に立った主将の島脇(体育4・釧路湖陵)が絶妙な犠打を成功させると、相手投手が一塁へ暴投し、勝ち越しに成功。最後は村木が締め、筑波大学が2対1で勝利した。昨春から続く東海大学のリーグ戦連勝を“17”で止め、優勝へ望みを繋いだ。

10/3(土)　3日目　第1試合　対桜美林大学　（牛久運動公園野球場）

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R
筑波大学	1	0	2	0	2	0	1	0	0	3	9
桜美林大学	0	0	0	4	0	1	1	0	0	1	7

位置	選手名	学年	出身	打	安	点
④	片岡	3	報徳学園	4	0	0
H	野中	3	秋田南	1	0	0
4	村上卓	4	松山北	0	0	0
⑤	座馬	4	浜松北	5	0	0
R	今井	2	健大高崎	0	0	0
5	水飼	4	竜ヶ崎第一	0	0	0
⑦	星野	3	高崎	3	1	0
(D)	田中	4	福岡大大濠	5	3	1
③	清水大	2	日立第一	4	3	2
⑨8	串田	4	県立船橋	4	1	2
⑧	上中尾	3	敦賀気比	3	0	0
H	仲井	2	県立星陵	1	0	0
9	伊藤	3	横手	0	0	0
②	成沢	1	東邦	4	2	0
⑥	坂口	3	東筑	3	1	0
合計				37	11	5

3安打猛打賞の活躍を見せた清水大（体育2・日立第一）

投手	佐藤隼、村木、奈良木、〇加藤三
捕手	成沢
本塁打	
三塁打	
二塁打	田中、清水大

投手成績

選手名	学年	出身	投球回	打者数	被安打	自責
佐藤隼	3	仙台	5	20	4	0
村木	4	静岡	2	11	3	1
奈良木	4	県立府中	2	7	0	0
*連盟規定により、10回よりタイブレーク適用						
〇加藤三	4	花巻東				

全5試合中2試合が終了した時点で、4チームが1勝1敗と波乱の幕開けとなった今季。優勝のためにも負けられないこの一戦は初回から試合が動く。2死から連打でチャンスを作ると、今季絶好調の5番清水大(体育2・日立第一)が右前適時打を放ち、幸先よく1点を先制する。三回にも連打でチャンスを作ると、串田(体育4・県立船橋)がセンター前に弾き返し2点を追加、試合を優位に進める。前回好投を見せた先発の佐藤隼(体育3・仙台)は六回まで一人の走者も出さない完璧な投球を披露するも四回、2死から安打と失策でピンチを招き5番打者に適時打、6番打者には右越本塁打を浴び、一挙4点を失い逆転を許してしまう。ここからも両チーム互いに譲らない展開が続く。筑波大学はその直後、相手の失策でチャンスを作ると、今試合すでに2本の安打を放っている4番田中(体育4・福岡大大濠)が左中間に適時二塁打を放ち、同点。続く串田も相手守備のミスを誘い、逆転に成功する。しかしその裏、相手の反撃を受け同点。七回、2死一塁から5番清水が猛打賞となる適時二塁打を放ち勝ち越すも、その裏再び同点を許し、試合は6対6のままタイブレークまでもつれ込む。十回表、先頭の清水が見事犠打を決め、1死二、三塁、続く串田が申告敬遠で満塁とすると、伊藤(体育3・横手)が初球を捉え左前適時打を放つ。これで勢いに乗った筑波大学は続く代打西浦(体育1・八尾)にも適時打が出てこの回一挙3点を奪い9対6とする。その裏マウンドに上がった加藤三(体育4・花巻東)は1点を失うも最後は三振に切って取り、9対7で筑波大学がシーソーゲームの大熱戦を制した。

10/4(日)　4日目　第1試合　対武蔵大学　(牛久運動公園野球場)

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	R
武蔵大学	5	0	0	0	1	0	0	0	0	6
筑波大学	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

位置	選手名	学年	出身	打	安	点
⑧	串田	4	県立船橋	3	2	0
⑤	座馬	4	浜松北	4	1	0
⑦	星野	3	高崎	2	0	0
H9	大竹哲	3	刈谷	2	1	0
(D)	田中	4	福岡大大濠	4	0	0
③	清水大	2	日立第一	3	1	0
⑨7	伊藤	3	横手	2	1	0
②	成沢	1	東邦	1	0	0
H	天貝	4	土浦第一	0	0	0
2	島脇	4	釧路湖陵	1	0	0
④	片岡	3	報徳学園	2	1	0
H	西浦	1	八尾	1	0	0
4	村上卓	4	松山北	0	0	0
H	濱内	2	履正社	1	0	0
⑥	坂口	3	東筑	3	0	0
H	野中	3	秋田南	1	0	0
合計				30	7	0

7奪三振の好投を見せた西舘（体育2・盛岡第三）

投手	●加藤三、西舘、奈良木
捕手	成沢、島脇
本塁打	
三塁打	
二塁打	

投手成績

選手名	学年	出身	投球回	打者数	被安打	自責
●加藤三	4	花巻東	4 2/3	23	8	6
西舘	2	盛岡第三	3 1/3	11	1	0
奈良木	4	県立府中	1	4	1	0

関東大会に出場するために負けられない武蔵大学との一戦。筑波大学先発の加藤三（体育4・花巻東）は連打と四球で0死満塁のピンチを作ると、次の打者にも四球を与え押し出しで1点を献上する。1死を取るも次の6番打者に初球を捉えられ満塁本塁打を浴び、初回に一挙5点を奪われてしまう。その裏、先頭の串田(体育4・県立船橋)が安打で出塁し、盗塁を決め0死二塁のチャンスを作る。続く2番の座馬（体育4・浜松北）が連打で0死一、三塁とチャンスを広げるが、星野の併殺の間の1点止まりとなる。二回にも8番の片岡(体育3・報徳学園)が安打を放つなど1死満塁のチャンスを迎えるが、あと一本が出ない。二回以降粘りの投球を見せていた加藤だが、五回、先頭打者に本塁打を浴び追加点を許してしまう。五回途中からは西舘(体育2・盛岡第三)が登板し、八回までに7奪三振の好投を披露する。九回には奈良木(社工4・県立府中)がマウンドに上がり、無失点で抑え打線の援護を待つ。しかし三回以降、打線は串田や伊藤(体育3・横手)、大竹哲(体育3・刈谷)の安打と4つの四球で再三チャンスを作るが、あと一本が出ず1得点に終わる。結果として1対6で敗戦し、関東大会出場の可能性が消えた。

10/18(日) 5 日目 第 1 試合 対日本体育大学(バッティングパレス相石スタジアムひらつか)

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R
日本体育大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
筑波大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2x	2

位置	選手名	学年	出身	打	安	点
⑧	串田	4	県立船橋	3	0	0
⑤	座馬	4	浜松北	4	0	0
③	清水大	2	日立第一	3	1	0
(D)	星野	3	高崎	2	0	0
HD	天貝	4	土浦第一	2	0	0
⑨	大竹哲	3	刈谷	4	3	0
⑦	伊藤	3	横手	3	0	0
④	片岡	3	報徳学園	3	1	0
②	成沢	1	東邦	3	1	0
⑥	坂口	3	東筑	2	1	0
H	田中	4	福岡大大濠	1	0	0
6	小川柾	2	札幌第一	0	0	0
合計				30	7	0

決勝打を放った西浦（体育 1 ・八尾）

投手	佐藤隼、西舘、奈良木、村木、〇加藤三
捕手	成沢
本塁打	
三塁打	
二塁打	清水大

投手成績

選手名	学年	出身	投球回	打者数	被安打	自責
佐藤隼	3	仙台	4	17	3	0
西舘	2	盛岡第三	2	7	1	0
奈良木	4	県立府中	2	7	0	0
村木	4	静岡	1	3	0	0
※連盟規定により、10回よりタイブレーク適用						
〇加藤三	4	花巻東				

関東大会出場とはならなかったが、筑波大学としての意地を見せたい最終戦。相手は今季投打が噛み合い、ここまで 4 連勝でリーグ優勝を決めた日本体育大学。先発の佐藤隼(体育 3・仙台)は初回を三者凡退に打ち取ると、相手先発投手も三人に切って取り、両投手上々の立ち上がりを見せる。佐藤はその後ピンチを招きながらも要所を抑え、四回まで無失点に抑える。打線は二回に大竹哲(体育 3・刈谷)の安打、三回に成沢(体育 1・東邦)、坂口(体育 3・東筑)の連打でチャンスを作るも先制とはならない。五回からは西舘(体育 2・盛岡第三)がマウンドに上がると、六回に先頭打者に右中間へ三塁打を打たれ、0 死三塁のピンチを招く。しかしそこからギアを上げ、150 キロのストレートを連発し、三者連続三振で無失点に抑える。その後は奈良木(社工 4・県立府中)、村木(体育 4・静岡)の盤石の投手リレーで好調の日体大打線に付け入る隙を与えない。両投手の奮闘により九回で決着つかず、試合はタイブレークまでもつれ込む。十回、先頭打者の絶妙な犠打が安打となり 0 死満塁のピンチを招くも、この回からマウンドに上がった加藤三(体育 4・花巻東)が粘りの投球を見せ最少失点で凌ぐ。その裏筑波大学は相手守備のミスもあり、1 死満塁のチャンスを作ると、代打に西浦(体育 1・八尾)を送る。2 ストライクと追い込まれた後の 3 球目、振り抜いた打球は右翼線適時二塁打となり、1 対 2 で逆転サヨナラ勝ちを収めた。4 年生にとって最後の試合、日本体育大学の全勝優勝を阻止し、見事有終の美を飾った。